

# 校長便り 怒濤 高

県立糸満高校

平成28年 6月20日 (月)  
校長 辻上 弘子  
第 6 号

## 九州大会でも、応援をパワーに変え、持てる力を出し切りました

周知の事実ではございますが、本校は部活動が盛んで、しかも強いときています。総体で九州大会を勝ち取った種目の1つにウェイトリフティングあり。九州大会会場が本校体育館ということもあって、試合日18日(土)19日(日)は燃えました。多くの応援をありがとうございました。おもてなしにぴったりではと、事務長発案による九州各県からの参加校「歓迎○○高校」縦幕を所狭しと張り巡らせた館内は、訪問客を楽しませた様でもあり、喜びました。有り難いことに、他県の会長の方々から「こんなに気遣いがあり行き届いた大会は初めてで、何から何まで素晴らしかった。」と恐縮するほどのお言葉を頂きました。入賞予定の胸算用とは違った結果に「練習で絶好調でも、本番ではうまくいかないこともあるのさ。それを今後の人生にいかすのも手ですよ。」と監督曰く。全くその通りでございます。元気な生徒挨拶も大好評でありました。

## 「その集中静寂の前にはひれ伏すしかない」と思ったほどでした

大会で生徒引率のため先生不在、となってしまう授業があります。先日の早朝講座の一コマ。7:40授業開始から10分経過。廊下から窓越しに覗いてみた教室で、男子生徒が立って後方へ移動中。何だろうってよくよく見ると片手に電子辞書を持っている。他の生徒の所へ一旦寄り、それから自分の席に着いた。おお 教えていたのか。生徒たちは、準備されたプリントに単語の意味を書いたり、スペルを練習していたり、それも黙々と。わたくしが廊下にいることも気づいていない生徒が大部分だから、その集中をきらせなくてもいいのに、思わずがらっと入室し「すごいね、きっと先生、鼻が高いはずよ。」と言い、邪魔したことを謝りながら退出したわたくしでした。どんな時も生徒が主体的に学習できる本校は、自慢の教育者らの結集体なのです。